

100秒の壁（1964年10月の東京を思いながら）

校長 新妻 茂

硫黄島三島クルーズへの出発準備をしていた9月9日15時35分ごろ、ラジオから流れてきたニュース速報に思わず拍手をして「やった！」と叫んでしまいました。

東洋大学の桐生祥秀選手が福井で行われていた日本学生対校選手権（インカレ）の陸上男子100mの決勝で日本人初の9秒台となる9秒98の日本新記録をマークしたというニュースでした。

100m9秒台を出した人類は桐生選手で126人目になります。100分の1秒というのは距離にして10cmですが、そのわずか20～30cmの壁を破るのに長い時間がかかりました。

オリンピック・世界陸上を通じて、100mの決勝に進出した日本人は今まで一人しかいません。1932年のロサンゼルスオリンピックで、吉岡隆徳（たかよし）選手が6位になったのが最高です。吉岡選手は抜群のスタートダッシュを身につけ、「暁（あかつき）の超特急」と呼ばれていました。余談ですが、吉岡さんは晩年、私と同じ東大和市に住んでおられて何度かお姿を拝見したことがあります。

その後、1964年の東京オリンピックでは、吉岡さんがコーチをしていた飯島秀雄選手が吉岡さんゆずりの「ロケットスタート」で、なんと第1次予選通過タイムで全体の1位を記録しました。しかし、第2次予選で、ゴール寸前で転倒し、準決勝には進出できませんでした。私はこれをテレビで見っていました。飯島選手はこの年の5月に吉岡選手の記録である10秒3を破る10秒1の日本新記録をマークしています。

小笠原が返還された1968年のメキシコオリンピックからは、アンツーカーのトラックではなくタータントラックが採用されたことにより、9秒台が続出し一気に高速化を迎えました。そこから日本の短距離界からは世界の背中が見えなくなります。このオリンピックから電気計時になり、ジム・ハインズ（米国）が9秒95で金メダルを取ります。

それから30年の歳月が流れ、1998年アジア大会（バンコク）の準決勝で伊東浩司選手が速報タイム9秒99（正式タイム10秒00）の日本新記録をマークします。桐生選手が速報タイム9秒99を見た時に祈るような気持ちだったと言っていることがよくわかります。

昔、陸上競技の世界では「1マイル（約1600m）4分の壁」というものがありました。オックスフォード大学医学部の学生であったバニスターは科学的な手法を取り入れ2人のペースメーカーをつけて、この4分の壁を破りました。その46日後、オーストラリアのジョン・ランディが3分58秒の新記録を出します。1年後には23人が4分の壁を破りました。

日本の短距離界にもこれと似たような現象が起こるのではないかと密かに期待しています。現に、桐生選手と一緒に走った多田修平選手は自己ベストの10秒05をマークしていますし、その15日後の9月24日には山縣亮太選手が日本歴代2位タイとなる10秒00をマークしています。これにケンブリッジ飛鳥選手やサニブラウン・ハキーム選手などが加わって抜きつ抜かれつしていくと2020東京のファイナルのスタートに“on your mark”（位置について）する日本人選手が出てくるのではないかと楽しみです。

10月の主な行事予定

1日（日）小中高連合運動会
2日（月）振替休業日
3日（火）振替休業日
4日（水）芝生の日
10日（火）保護者会
13日（金）視力検査1年
16日（月）中間考査
18日（水）食育

20日（金）生徒会総会
視力検査3年
24日（火）視力検査2年
30日（月）学校公開（始）
11月5日（日）まで
31日（火）学校公開・展示（始）
※11月4日（土）土曜日授業
11月5日（日）学習発表会

硫黄島訪島事業

今年度の訪島事業は、硫黄島への上陸はかないませんでしたが、三島クルーズにおける訪島事業として参加することができました。夜の出航では、二見港の様子もいつもと違いました。出航後すぐに行われた、硫黄島協会の江澤さんによる遺骨収集の講話は、やや揺れを感じる海況で、残念ながら全員で聞くことができませんでした。それでもスライドを見ながら話を聞き、メモをとりながら、作業の大変な様子を学習しました。

翌日は天気にも恵まれ、波も穏やかでした。硫黄島沖で行われた洋上慰霊祭は、日差しや風が強い中でしたが、最後まで厳かな態度で参加し、小笠原の中学生として立派に役割を果たしたと思います。

三島クルーズの目的である硫黄三島の観察では、早朝、南硫黄島の雄大な姿を目にすることができました。北硫黄島は、頂上の雲もなく、はっきりと全景を観察することができました。バードウォッチャーの方の熱心な様子も、生徒たちにとっては新鮮だったと思います。小笠原の魅力を改めて知ることができたのではないのでしょうか。

今後は、学んだこと、伝えたいことを、生徒たちの思いとしてまとめ、学習発表会で披露していく予定です。お世話になった皆様、ありがとうございました。



誓いの言葉

私たちは硫黄島訪島事業に参加するに当たり、戦前、戦中、戦後のこと、硫黄島の自然環境や生活など、18のテーマに分けて調べ学習を行い、クラス発表を行いました。父島の夜明山では戦跡調査も行いました。これらの学習を通して感じたこと、思ったことを、小笠原中学校の代表として、これからお話しします。

戦前の硫黄島は、自然が豊かで活気に満ちた島でした。硫黄の採掘、サトウキビやレモンガラスの栽培など産業も盛んでした。学校で行われる運動会や遠足、奉納相撲など、楽しく充実した生活が送られていました。

しかし昭和19年、米軍による空襲が始まり、硫黄島は戦場となります。多くの島民は強制疎開をさせられ、若い男子は軍属として島に残るように命じられました。バラバラに引き裂かれた家族は、二度と会うことができなくなってしまいました。

硫黄島は日米双方にとって、大変重要な場所でした。米軍は硫黄島を日本本土爆撃の中継基地にするため、日本軍はそれを阻止するため、必死に戦いました。激しい戦闘は一ヶ月以上続き、両軍合わせて約2万7千人の命が失われたのです。島の豊かな緑は消え、摺鉢山は痛々しい砲撃の傷跡が多く残る酷い姿になってしまいました。

戦後70年以上が経った今、硫黄島は戦前のような緑を取り戻しつつあると言われていています。しかし、戦争で失われた多くの命と人々の深い心の傷は元には戻りません。遺骨の収集も難航し、未だに1万柱の遺骨が硫黄島に眠ったままだと言われていています。旧島民の方々の帰島も実現していません。

私たちは硫黄島についての一連の学習を通して、平和に暮らせることのありがたみや命の尊さを知りました。そして、島の歴史を分断し、多くの悲劇を生んだ戦争を繰り返してはいけないと強く感じました。戦争と平和についてこれからも考えていくとともに、小笠原村の村民の一人として、硫黄島で起きたことを後世に伝え、平和で幸せな世界を築いていくことを誓います。

外来種駆除活動

9月8日（金）に、東平アカガシラカラスバトサンクチュアリーで、外来種駆除活動を行いました。当日は天候にも恵まれ、3台の車に分乗して車内では楽しくおしゃべりしながら現地に向かいました。

現地で林野庁の方々と、自然観察員の方と合流し2班に分かれ、それぞれに植物等の説明を受けながら作業場所に向かいました。

そして駆除の対象であるキバンジロウの見分け方を教わり、はさみやのこぎりで実際に木を切りました。作業の時間は多くはありませんでしたが、生徒達は皆一所懸命作業を行うことができ、自分たちが駆除した木々をみてとても満足そうな笑顔を浮かべていました。前日の事前学習を通じ、外来種駆除活動を行う意義を考え、かつ安全に配慮しながら活動ができたのではないかと思います。

小笠原諸島森林生態系保全センターの皆様をはじめ、協力してくださった方々ありがとうございました。



ブイ・フロート清掃

9月24日（日）に、小笠原小学校の児童と小笠原中学校の生徒、保護者や地域の方々、教職員で力を合わせて、ブイ・フロートの清掃作業を行いました。晴天のもと、約1時間かけて、ブイ・フロートを丁寧に清掃しました。中学生は、今年度青灯台の工事に伴って設置されたオイルフェンスの清掃を担当しました。たわしやデッキブラシなどでしっかりこすり、汚れを落としていました。自分たちが使った物を自分たちで力を合わせて清掃するという小笠原小中学校の良い伝統を今後も続けていきたいと思っています。最後になりましたが、生徒が安全に青灯台で遊べるようご尽力いただいた全ての方に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。



生徒会役員選挙

9月5日（火）に公示され、選挙運動開始後は、前庭での挨拶運動、昼の放送等を行いました。立会演説会では、これからどんな小笠原中学校にしていきたいか各立候補者から熱い思いが語られました。その後、全校生徒による投票が行われ、4人全員信任されました。10月から生徒会の中心が1、2年生にバトンタッチされます。

後期委員会発足 ～より良い小笠原中学校へ～

生徒会役員選挙、各学年での学活で決定した役員、各種委員会を紹介します。より良い小笠原中学校のためによりしくお願いします。

○生徒会役員

会 長
副会長
書 記

○委員会

	1年	2年	3年
学級			
生活			
美化			
保健			
放送			
図書			
体育			

小中高連合運動会

10月1日（日）の連合運動会は、雨のため午前の部で中断になりました。生徒達へのご声援、ご協力ありがとうございました。10月8日（日）に後半を実施する予定です。10月1日同様、生徒達への応援をよりお願いいたします。

保護者・地域の方々へ

生徒会役員選挙を経て生徒会総会と、いよいよ3年生から2年生へのバトンタッチとなります。また、部活動も新キャプテンの下での活動になりました。そして中間考査。3年生は進路決定のときが近づいてきました。

生徒にとって、節目はまさに自分を伸ばす絶好の機会です。この機会を逃さず、成長ができるよう、学校として努力して参ります。併せて、ご家庭、地域の皆様のご協力もよりお願いいたします。